



# 東日本ユニオンにいがた

http://niigatachihon.yukigesho.com/

申8号「モビリティ・サービスシステムにおける  
体制見直しについて」に対する申し入れ 団体交渉を終了

## 施策実施の目的からは遠い現実 現場実態に基づく実施を訴える

新潟地本は2月13日、申8号「モビリティ・サービスシステムにおける体制見直しについて」に対する申し入れの団体交渉を行いました。

昨年12月に提案を受けた「モビリティ・サービスシステムにおける体制の見直しについて」は、乗務員の駅業務融合行路の新たな設定をはじめ、車掌専属交番の見直し、無人駅等管理業務の一部業務委託などを実施するとしています。

施策を担う社員が働きがいを実感でき、安全安定輸送と質の高いサービス提供が実現できる体制とするために申し入れを行っていたものです。

業務融合を進める目的は  
新たな価値創造に挑戦していくため

新潟・長岡統括センターの運転士交番に車掌行路の一部を融合する目的を明らかにするよう求めると支社側は、業務融合を進めることで社員の活躍フィールドや業務領域を拡大し、新たな価値創造に挑戦していくためであるとの回答を示しました。

その上で、将来にわたって鉄道オペレーションを維持していくために融合と連携を加速していく考えであるとしました。見習い中に勤務変更等



に対し、行わなければならない教育項目、研修は何かを質しました。

支社側は、ステーションバイブルに則った項目であり、研修については見習いのため現状行う考えはないとしました。

対象者や具体的なスケジュールを質すと、相互運用教育終了者が対象で、机上教育を行った上で見習いを行うとの考えを示しました。

支社側は配慮するといったものの、どうしてもやむを得ない場合はあると述べるにとどまりました。

業務融合で駅業務を担う社員の教育に関して、この間の実態に対する認識を質すと支社側は、全社統一でステーションバイブルに則って行っているとの回答をしました。

しかし、ステーションバイブルに則った教育が行われていないという声が組合に寄せられていることを指摘すると、状況を調査し、そのような実態であれば指導していくとの考えを示しました。

長岡統括センターの乗務員による新幹線ホーム列車扱い見習いを開始する目的を質し、業務融合を進めることで社員の活躍フィールドや業務領域を拡大し、新たな価値創造に挑戦していくためであるとの回答を受けました。

見習いについて必要な教育を実施していく考えであると回答した支社側

新幹線で行っている月報の対応はどうなのか問うと、新潟でも月報はできるので、新潟に勤務指定をしなくてもできると考えているとしました。

## 新潟地本で 新たな仲間が加入!



新たな仲間と  
共にがんばろう!

長岡統括センターの運転士交番に組み込まれる車掌行路に設定された「駅業務等」で行う作業を質すと支社側は、新幹線列車扱いであるとの回答を受けました。

「駅業務」ではなく「等」が付くことから、企画等に変わる事はあるのか質す

フレックスタイム制導入に伴う作業ダイヤの見直しにより、長岡駅での案内放送が原則として廃止されたことから、サービス低下とならないよう乗換等旅客案内を行える体制とするよう求め、必要な体制は確保しているとの回答を受けました。

社員がお客さまから苦情を受けていることを把握しているのか質すと支社側は、

新津駅で運行している月報の対応はどうか問うと、新潟でも月報はできるので、新潟に勤務指定をしなくてもできると考えているとしました。

長岡駅案内放送廃止に対する苦情は把握  
より良いサービスを検討

握しているか質すと支社側は、

新津駅を拠点とする業務担当社員を配置せず、新潟駅に集約するメリットについて明らかにするよう求めました。

支社側は、これまで異常時は緊急呼び出しで対応していたが、勤務箇所にとらわれない仕組みによりスケールメリットを活かした業務運営ができるとの考えを示しました。



新津駅で行っている月報の対応はどうか問うと、新潟でも月報はできるので、新潟に勤務指定をしなくてもできると考えているとしました。